大崎後原遺跡

福岡県小郡市大崎所在遺跡の調査報告

小郡市文化財調査報告書第２４７集

２００９

小郡市教育委員会

＜序　文＞

小郡市では、これまでニュータウン開発や工業団地造成などの大規模開発に対応して数多くの発掘調査を行ってきました。近年では、市内の主要幹線道路整備に伴う小規模な宅地や店舗の開発の他に、個人住宅の建て替え等も盛んに行われるようになり、これら緊急発掘調査への対応により、小郡市内の各地域における詳細な歴史像が次第に明らかになりつつあります。

今回報告する「大崎後原遺跡」は、範囲も限られた小規模な調査ではありますが、大崎地区における弥生時代遺跡の広がりが確認され、新たな資料を加えるものとなりました。

残念ながら遺跡は開発工事と引きかえに消失することになりましたが、今回の発掘調査が生かされるとともに、今後の文化財保護の向上に役立つことを願ってやみません。

調査にあたりましては、地権者の田中正三さんには深いご理解とご協力を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

平成21年３月31日
小郡市教育委員会
教育長　清武　輝

＜例　言＞

１．本書は、福岡県小郡市大崎字後原742-10 ～ 13、742-80・81の一部における宅地造成に伴い消滅する埋蔵文化財について、小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
２．本書に掲載した遺構は横田雅江・山本絹子・担当（佐藤）が、遺物実測は、田中良輔（嘱託）・白木千里が行い、製図は白木が行った。
３．遺構写真は佐藤が撮影し、遺物の写真は「写真工房 岡」の岡 久夫が撮影した。
４．遺構実測図中の方位は真北を示し、座標は国土座標によっている。
５．写真図版における遺物番号は、挿図における番号を示す。
６．略号として、Cは住居跡を、Dは溝を、Rは土壙墓を、Xはその他の遺構を表す。
７．本書の執筆・編集は佐藤が行い、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管管理している。

＜本文目次＞

第１章　調査の経過と組織…… 1
第２章　位置と環境…… 2
第３章　遺構と遺物…… ３～７
出土土器観察表…… 8
図　　版…… 9～13
報告書抄録…… 巻末

第１章　調査の経過と組織

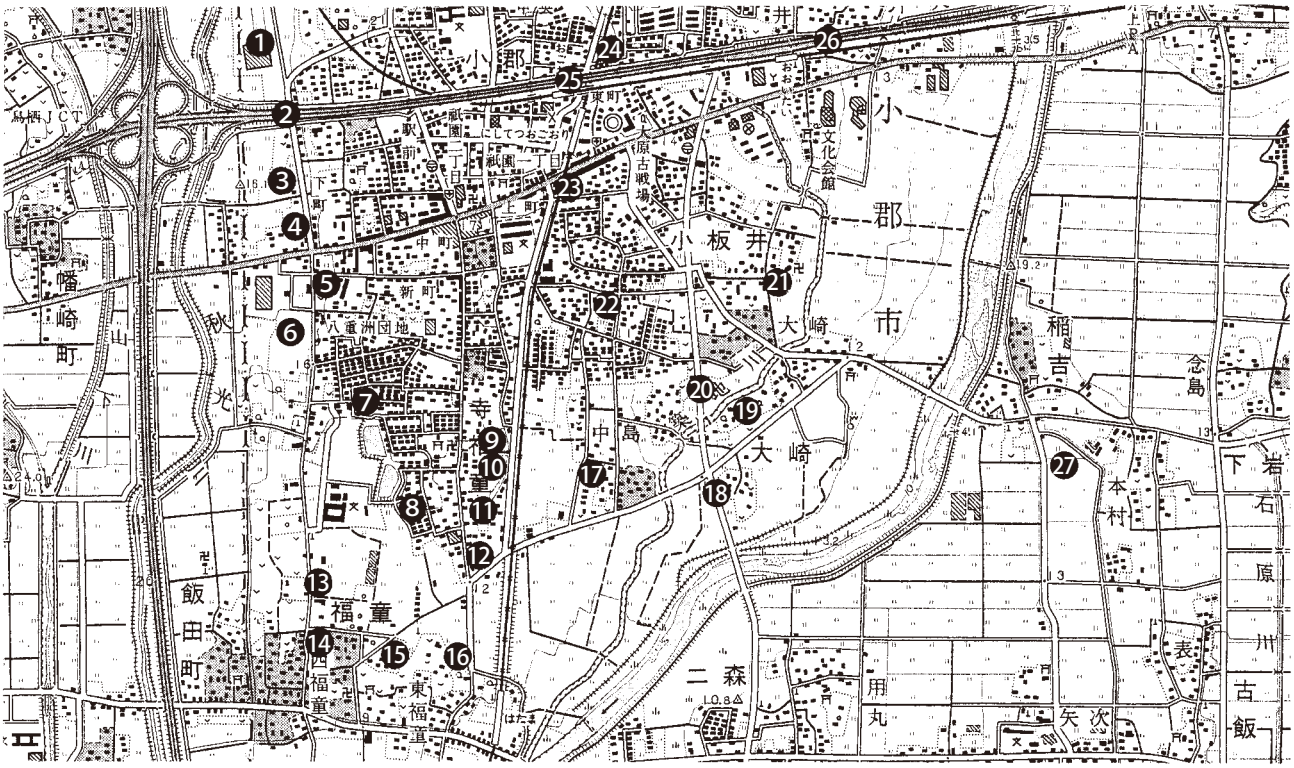
大崎後原遺跡の調査は、開発行為（宅地造成）に先立ち、小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無について照会があったことに始まる（審査番号7087）。照会を受けて平成19年11月９日に試掘調査を行った結果、対象地のほぼ全域、地表下30～95㎝下で遺構を確認した。今回の開発行為では、宅地部分については盛土による区画造成となることと、建物建築を伴わないことから、セットバック箇所を含む道路造成部分についてのみ発掘調査を行うこととなった。平成20年７月24日付で地権者の田中正三氏と埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、調査を実施した。

現地調査は、７月31日（木）・８月１日（金）で重機による表土剥ぎを行い、週明けの８月４日（月）より作業員を導入して遺構の検出と掘り下げを順次行った。遺構の掘り下げ作業と遺構撮影・実測作業を並行しておこない、８月26日（火）までにすべての発掘作業を終了した。８月27日（水）と９月１日（月）で重機による埋め戻しを行い、現地作業を終了した。報告書作成は同年度に実施した。

調査の体制は以下のとおりである。

小郡市教育委員会	教育長	清武　輝
教育部	部長	赤川　芳春
文化財課	課長	田篭千代太
	係長	重松　正喜
	企画主査	片岡　宏二
	技師	佐藤　雄史

〔現場作業員〕天本大志・伊藤みさ子・田中賢二・横田雅江・山本絹子



1. 小郡川原田遺跡
2. 小郡正尻遺跡
3. 小郡正尻遺跡２～４
4. 小郡野口遺跡
5. 小郡堂の前遺跡
6. 福童山の上遺跡
7. 寺福童遺跡５
8. 寺福童遺跡２
9. 寺福童遺跡３
10. 寺福童遺跡４
11. 寺福童内畑下道東遺跡
12. 寺福童遺跡
13. 福童町遺跡４・６
14. 福童東内畑遺跡
15. 福童町遺跡
16. 寺福童町遺跡
17. **大崎後原遺跡**
18. 大崎中の前遺跡
19. 大崎遺跡
20. 大崎小園遺跡
21. 小板井屋敷遺跡
22. 大崎井牟田遺跡
23. 小板井京塚遺跡
24. 小郡向築地遺跡
25. 小郡前伏遺跡
26. 大板井遺跡
27. 稲吉元矢次遺跡

第１図　周辺遺跡分布図（1/25,000）

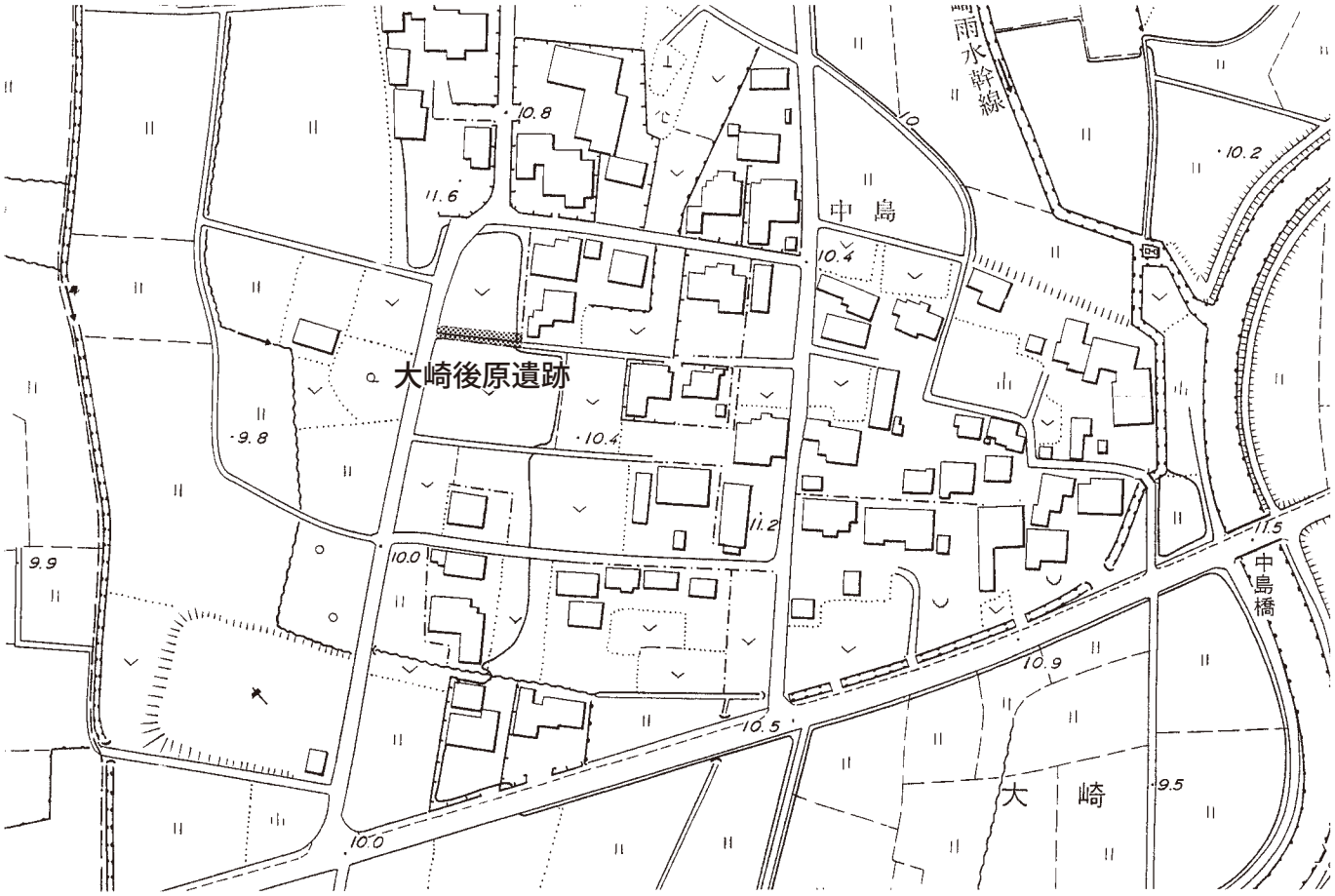
第２章　位置と環境

大崎後原遺跡は、宝満川の西岸、三国丘陵からなだらかに続く低台地上の縁辺部に位置する。現況は畑地で、標高は11.30m前後を測り、西側の水田面からは若干土地が上がった形となる。当地の西側には南から谷が入り込み、この谷を挟んだ対岸部分に銅戈埋納遺構を検出した寺福童遺跡４を始めとする寺福童遺跡群が所在する。

大崎地区周辺では、市内でも主要な遺跡がいくつか存在し、これまでに大崎井牟田遺跡、大崎中ノ前遺跡２、大崎小園遺跡等が発掘調査されている。大崎井牟田遺跡は、市内でも希少な縄文遺跡の一つで、縄文時代早期の炉跡と考えられる集石遺構が発見されている。大崎中ノ前遺跡２は、弥生時代中期前半から後期初頭に至る集落で、竪穴式住居や土坑、掘立柱建物等が検出された。土坑のいくつかは貯木土坑と考えられ、漆塗り木製品や木製の鍬が出土している。大崎小園遺跡は、古墳時代初頭から後期にわたる集落遺跡で、古墳時代初頭の竪穴式住居からは在地の土器に伴って畿内系の土器が出土している。以上のように、各時代を通して集落が形成されてきた点が、大崎地区の特徴の一つとして上げられる。

これに対して寺福童地区では、寺福童遺跡における古墳時代初頭の方形周溝墓に代表されるように、埋葬遺構が多く発見されている。特に寺福童遺跡５では、弥生時代早期の木棺墓群から、弥生時代中期～後期の甕棺墓・土壙墓、そして古墳時代初頭にかけての石棺墓・方形周溝墓に至るまで、各時期の墓が連綿と営まれており、墓域としての性格を際立たせている。また、前出の寺福童遺跡４では、中広形銅戈９本を伴う埋納遺構も発見されており、時代によっては祭域を併せ持つ地域であったことがわかる。

大崎地区では埋葬遺構のまとまった発見が無く、逆に寺福童地区では集落遺跡の検出に乏しいこともあり、「集落域」・「墓域」という相互関係が存在していた可能性がこれまでにも指摘されてきた。今後も両地域における遺跡の動向をより詳細に解明していく必要があるだろう。



第２図　調査地点位置図（1/2,500）

第３章　遺構と遺物

発掘調査面積は59.5㎡で、遺構検出面の標高は11.00m前後を測る。現況面から遺構検出面までが40cmと浅かったが、遺構の残存状況は比較的良好である。検出した遺構は、C：住居跡が1軒、R：土壙墓３基、D：溝が１条、X：その他の遺構が１つである。遺構検出面の地山は淡茶褐色ロームで、掘り下げるにつれて淡黄褐色土から砂へと変わっていく。以下に各遺構の詳細を述べるが、出土遺物については観察表にまとめた。

＜C：住居跡＞

C‐1：調査区東側からの検出である。部分的な検出のため、全体の形状・規模は不明だが、平面形は長方形をなすものと考えられる。短辺は4.25mで、床面までの深さは30cm、掘形下端までが50cm程である。床面中央より径60 ～ 70cm、深さ18cmの浅い土坑を検出した。また東壁沿い中央付近からも幅１m弱、深さ10cm程（掘形下端までの深さが30㎝）の土坑を検出したが、底面が焼土化しており、屋内炉として使用されていた可能性がある。屋内炉の左右東壁沿いと、反対側の西壁沿いからは、段差10cm程のベッド状遺構を検出した。ベッド状遺構の壁際に沿っては、側板の痕跡と思われる掘込と土層が観察された。その他に、住居の対角線上に沿って深さ30 ～ 40cm程度の小ピット2穴を検出したが、柱穴かどうかは不明である。なお、図面中破線で示した方形の掘り込みは、床面の一部を他の遺構と誤って掘り下げてしまったものである。

＜R：土壙墓＞

R‐1：調査区中央付近からの検出である。S-37°-Wに主軸を取り、長さ1.62mを測る。幅は南側で0.4m、北側で0.25mを測り、床面も南側のレベルが高く、頭は南側と推定される。床面までの深さは25cmで、床面の頭と足の箇所より赤色顔料を検出した。床の構成土は黄褐色地山ブロック土と灰褐色土が混ざった土からなり、掘形は中央部分が深く掘り下げられていた。最も深い箇所で深さ0.47mを測る。

R‐2：調査区東側、南壁際での検出である。残存状況は悪く、床面のレベルで検出した。S-37°-Eに主軸を取り、検出長0.85mを測る。形状はやや不整形であるが、北側が幅0.34mと広く、床面より赤色顔料を検出していることから、頭は北側と推定される。床の構成土は淡褐色土からなり、床面から掘形底面までの深さは10cm程である。なお、土層断面上では、墓壙内埋土として暗茶褐色土が観察された。

R‐3：調査区西側、北壁際からの検出で、C-1に切られ、D-1を切る。C-1に切られていることと、部分的な検出のため、全体の形状・規模は不明である。主軸方向はR-1・R-2に比べて、南を基準にやや西に振れる。最下層より赤色顔料を検出しており、南側が頭の可能性がある。検出面から底面までの深さは40cm程である。

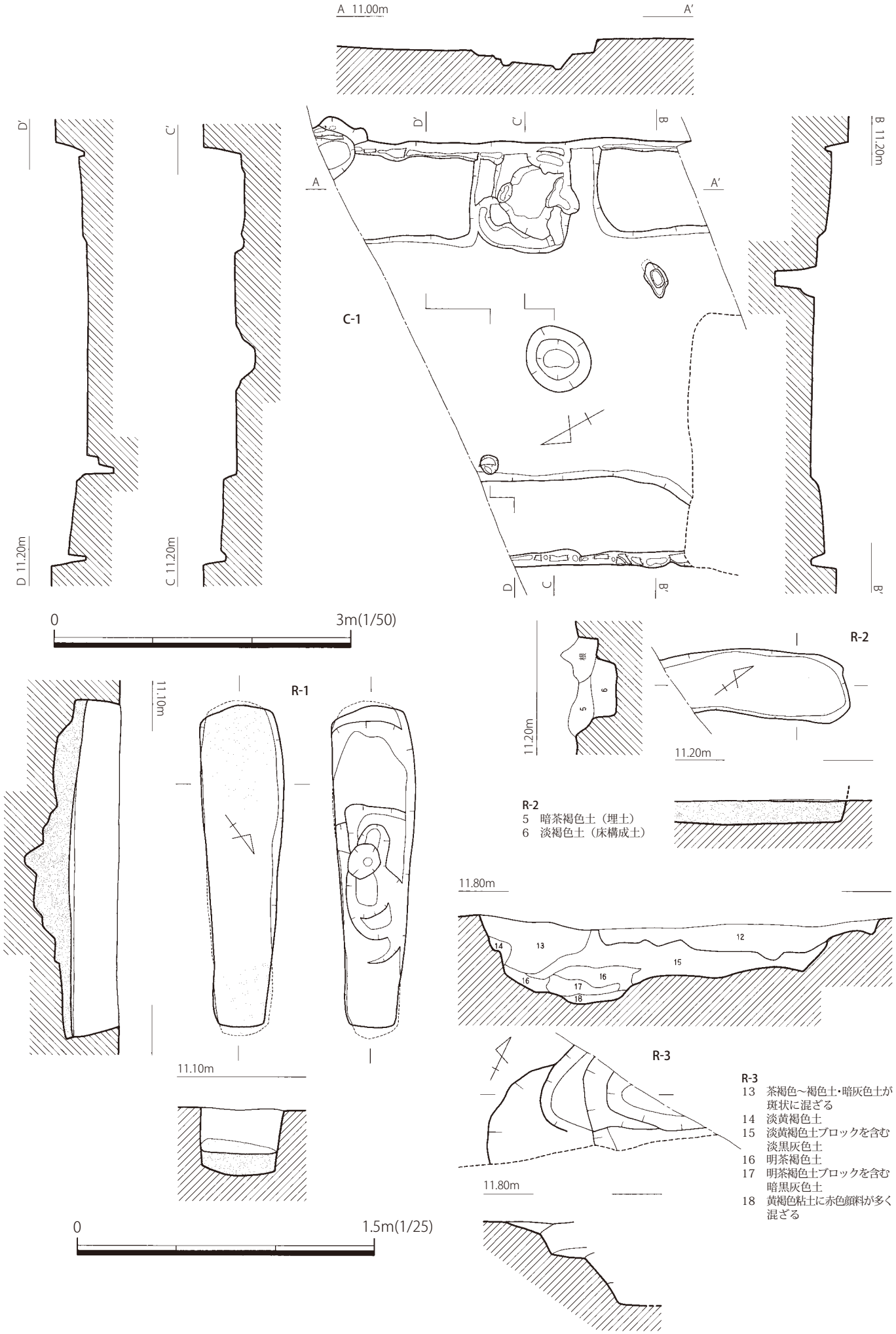
＜D：溝＞

D‐1：調査区東側、C-1完掘後の検出で、R-3に切られている。 溝の延びる方向はS-50°-Wで、底面は南側に向けてわずかに下る。溝本体の幅は上端で2.4m、下端で2.2mを測り、遺構検出面からの深さは0.7m程である。底面はほぼフラットで、断面形は幅広の逆台形をなす。

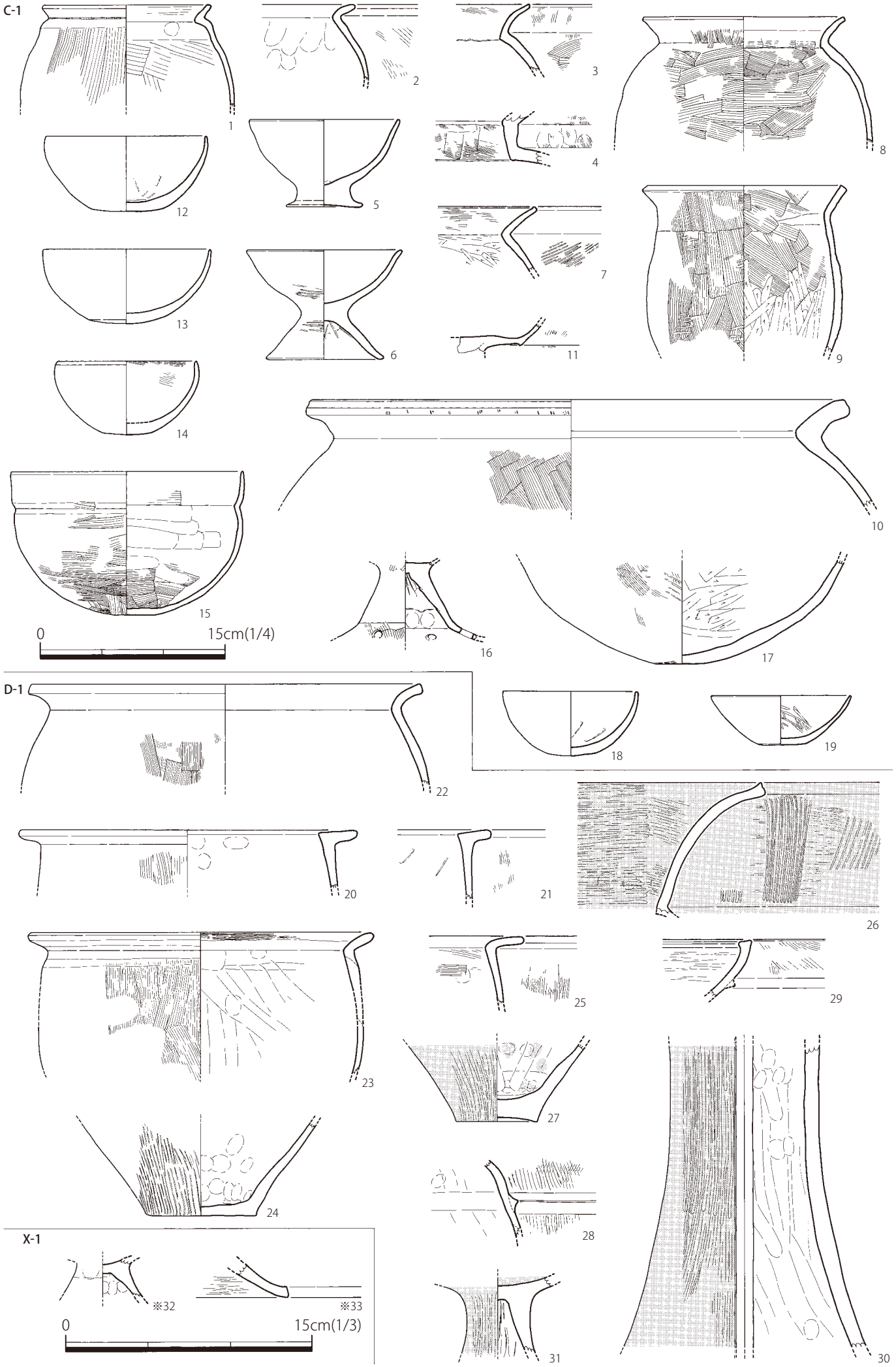
＜X：その他の遺構＞

X‐1：調査区西側からの検出である。その他の遺構として扱ったが、掘り込みの形状が不整形であること、埋土の状況が自然堆積の様相をなすこと、検出が西側に向けて地形が落ちる箇所にあたることから、西側の谷部に向けた自然地形の「落ち」と判断された。遺構検出面から底面までの深さは0.7mを測り、底面からは深さ15cm程度の浅い凹みがいくつか検出された。底面から上端に向けた立ち上がりには、滞水した際の浸食によるものと思われる「抉れ」が認められた。

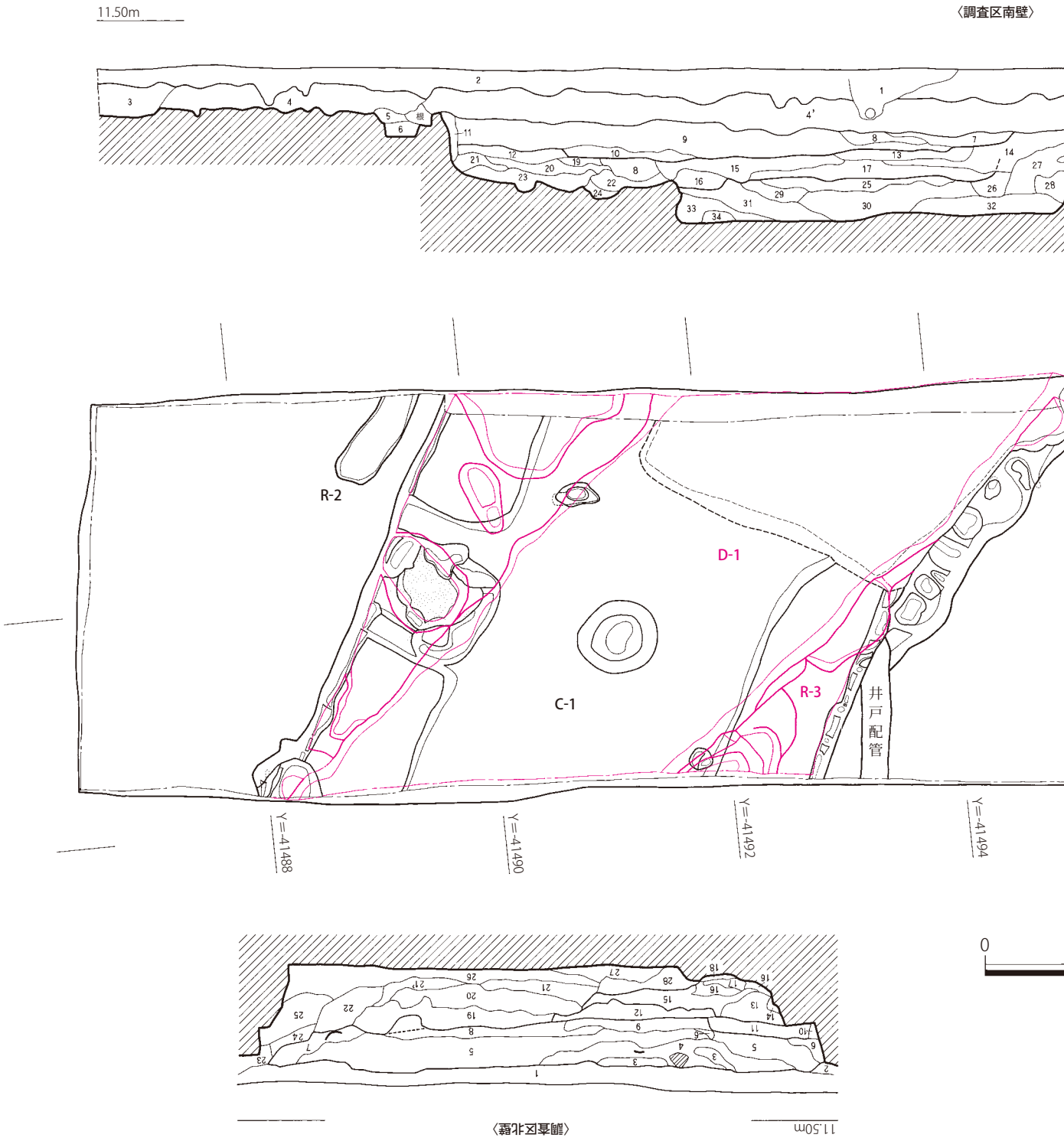
最後に各遺構の時期について簡単にふれると、C-1は出土土器から古墳時代初頭の時期と考えられ、土層の堆積状況と出土土器からX-1も住居跡と同じ時期には存在していたと推定される。D-1は出土した土器から弥生時代中期後半と考えられる。R-1・2・3からは時期を決する遺物は出土していないが、小郡市周辺ではこの手の土壙墓が弥生時代後期を中心にして盛行しており、確認されたD-1 → R-3 → C-1の切り合い関係とも矛盾しない。



第３図　C：住居跡・R：土壙墓実測図（1/50・1/25）



第４図　出土土器実測図（1/4・※1/3）

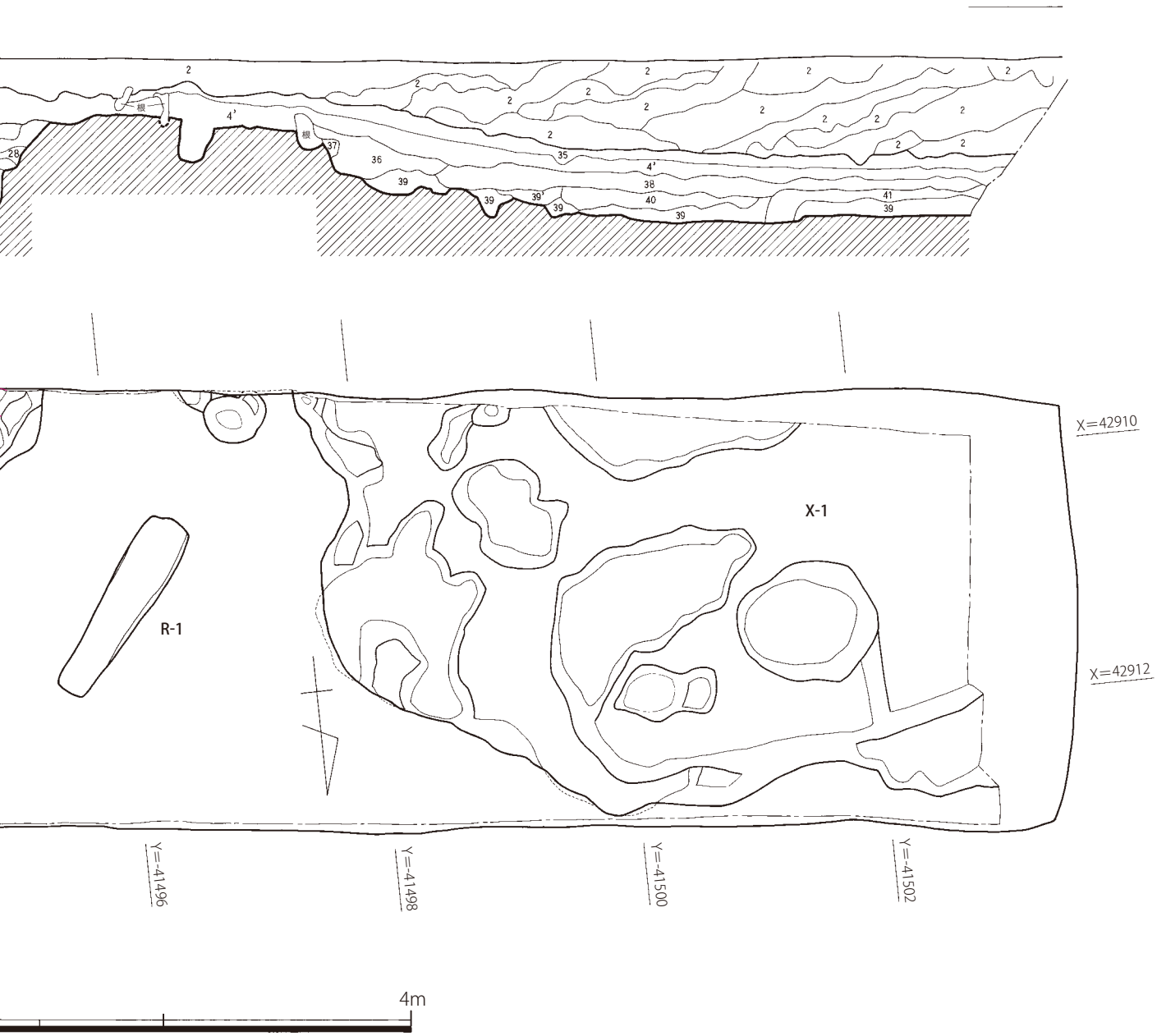


＜調査区北壁土層＞

1　耕作土（灰褐色土）
2　暗褐色土
3　暗黄褐色砂礫土を含む暗褐色土
4　暗灰褐色土
5　暗茶褐色土
6　淡黒褐色土
7　淡黒褐色土
8　地山小ブロックをわずかに含む暗茶褐色土
9　地山小ブロックと炭を含む暗灰茶褐色土
10　淡灰褐色土（側板の痕跡）
11　茶褐色土・黒褐色土が斑状に混ざる
12　淡黄褐色砂礫土・灰褐色土が斑状に混ざる
} C-1

13　茶褐色～褐色土・暗灰色土が斑状に混ざる
14　淡黄褐色土
15　淡黄褐色土ブロックを含む淡黒灰色土
16　明茶褐色土
17　明茶褐色土ブロックを含む暗黒灰色土
18　黄褐色粘土に赤色顔料が多く混ざる
} R-3

19　淡黒灰色土
20　暗灰褐色土
21　淡黒色土
21’　淡黒色土（やや褐色がかる）
22　暗灰褐色土（砂礫を含む）
23　暗灰褐色土（22より暗い）
24　褐色土
25　暗黒褐色土
26　黄褐色土ブロックを含む暗灰褐色土
27　黄褐色土ブロックを含む暗灰褐色砂礫土
28　黄褐色土ブロック土（暗灰褐色土がわずかに混ざる）
} D-1



＜調査区南壁土層＞

1　井戸塩ビ管掘形埋土
2　市道整備時の造成土及び谷部への埋土
3　淡黒茶褐色土
4　淡黒褐色土
4'　淡黒褐色土（やや褐色がかる）
5　暗茶褐色土（埋土）
6　淡褐色土（床構成土）
} R-2

7　淡黒褐色土
8　暗灰茶褐色土
9　暗茶褐色土
10　黄褐色粘土ブロックを含む暗褐色土
11　灰褐色土（側板痕跡）
12　焼土粒・黄褐色土小ブロックを含む暗茶褐色粘質土
13　淡黒色土
14　暗黒褐色土
15　灰茶褐色土
16　淡黄褐色砂礫土＋暗灰色土
17　暗灰茶褐色土
18　淡黄褐色土ブロックを含む暗茶褐色土
19　茶褐色土＋暗灰色土
20　暗灰褐色土
21　黄褐色土＋灰色土
22　灰色がかった淡黄褐色土
23　灰色土＋淡黄褐色土（細かく斑状に混ざる）
24　淡黄茶褐色砂質土
} C-1

25　黄褐色土小ブロックを含む淡灰茶褐色土
26　暗黒褐色土
27　黒色土
28　暗灰茶褐色土
29　褐色土
30　暗褐色土
31　淡黒灰色土
32　暗灰褐色土
33　明茶褐色土
34　明褐色土
35　暗黄褐色土
36　淡黒色土
37　黄褐色土＋淡黒色土
38　黒褐色土
39　黄褐色土＋黒褐色土（斑状に混ざる）
39'　黄褐色土＋黒褐色土（黄褐色土が多い）
40　黄褐色土＋黒褐色土（黒褐色土が多い）
41　暗灰色土と淡黄褐色土が混ざる
} C-1

第５図　遺構配置図（1/50）

挿図番号	出土遺構	器種	法　量 （復元値） ㎝	色　調	胎　土	焼成	成形・調整技法	備　考
第4図1	C-1上層	甕	口：(13.6) 高：8.4	淡褐色	精良、1㎜程度の長石・雲母等を少量含む	良好	口：ヨコナデ（一部ハケメ） 胴内：ハケメ　胴外：タテハケメ	
第4図2		甕	口：(17.4)	黄橙色	微細粒含む	良好	口：ヨコナデ　胴内：ナデ 胴外：ハケメ後ナデ	
第4図3		甕	口：(15.2)	淡黄色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良好	口：ハケメ後ナデ　胴内：ナデ 胴外：ハケメ	
第4図4		壺		にぶい褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良好	頸内：ハケ　胴内：ハケメ 頸外：ハケメ後ナデ	
第4図5		脚付 埦	口：(12.2) 脚：6.2 高：7.0	黄橙色	砂粒を僅かに含む	良好	口：ヨコナデ　坏内外：ナデ 脚外：ヨコナデ、ナデ	
第4図6	C-1下層	脚付 埦	口：(12.5) 脚：9.5 高：8.9	明赤褐色	3㎜以下の砂粒を多く含む	良好	口：ヨコナデ　坏内：ナデ 坏外：ナデ・ミガキ 脚内：板状工具痕　脚端：ヨコナデ	
第4図7		甕		内：橙色～黄橙色 外：赤橙色～灰黄橙色	3㎜以下の砂粒を多く含む	良好	口端：ヨコナデ　口内：ハケ後ナデ 胴内：ハケメ後ヘラケズリ 胴外：タタキ	
第4図8		甕	口：(16.4)	橙褐色	密、1～2㎜の石英・長石等を少量含む、金雲母を少量含む	良好	口端：ヨコナデ、口内：ハケメ後ヨコナデ　口外：ハケメ後ヨコナデ 胴内外：ハケメ	
第4図9		甕	口：(15.6)	内：橙褐色 外：橙褐色～褐色	密、1～2㎜の砂粒を少量含む	良好	口端：ヨコナデ　口内：ハケメ 口外：タタキ後ハケメ 胴内：ハケメ後ヘラケズリ（下部） 胴外：タタキ後ハケメ	
第4図10		甕	口：44.0	にぶい橙色	1～4㎜の砂粒を少量含む	良好	口：ヨコナデ　胴内：ナデ 胴外：ハケメ	口縁部に浅く刻目を施す（2本単位）
第4図11		高坏		明黄褐色	2㎜以下の砂粒を少量含む	良好	内：ヨコナデ、ナデ 外：ハケメ後ナデ	内外面とも一部黒変
第4図12	C-1床直上	埦	口：13.0 高：6.1	内：赤褐色～灰褐色 外：赤褐色	密、1～2㎜の長石を少量含む	良好	口：ヨコナデ　体内：板状工具によるナデ　体外：ナデ	内面にススの付着？
第4図13		埦	口：13.6 高：5.1	暗灰色	1～3㎜の石英・長石等を多く含む、金雲母を微量含む	良好	内外：ナデ	
第4図14		埦	口：(11.7) 高：5.9	褐色～赤褐色	2㎜以下の砂粒を含む	良好	口内:ハケメ後ナデ　体内:ナデ(板状工具によるナデ？)　体外：ナデ	
第4図15	C-1屋内炉	鉢	口：18.9 高：11.6	橙褐色～褐灰色	密、1～4㎜の石英・長石・金雲母を少量含む	良好	口：ヨコナデ（内部一部にハケメ） 胴内：下部ハケメ→上部板状工具によるナデ　胴外：ハケメ	
第4図16		高坏		橙褐色	1～5㎜の石英・長石・金雲母等を多く含む	良好	脚内:ナデ（粘土の接合痕、絞り痕） 脚外：ナデ、ハケメ	穿孔3箇所残。本来は4箇所穿孔していたと思われる
第4図17	C-1中央土坑	甕		内：にぶい黄橙～灰褐色 外：灰褐～黒褐色	2㎜以下の砂粒を含む	良好	胴外：タタキ後ハケメ　底外：ハケメ後ナデ　胴内：ヘラケズリ 底内：ナデ	
第4図18		埦	口：11.0 高：5.3	橙褐色	密、1～4㎜の石英・長石・金雲母を少量含む	良好	内：ヨコナデ、ナデ（板状工具痕） 外：ナデ	内外面にススの付着
第4図19	C-1北側土坑 (C-1を切る)	埦	口：(11.4) 高：4.0 底：4.8	橙色～明赤褐色	1～4㎜の砂粒を少量含む	良好	口：ヨコナデ　体内：ナデ、ヘラミガキ　体外：ナデ	
第4図20	D-1下層	甕	口：(27.4)	明黄褐色	1～4㎜の砂粒を長石・石英を少量含む	良好	口：ヨコナデ　胴内：ナデ 胴外：ハケメ後ヨコナデ	
第4図21	D-1	甕		赤褐色	1～4㎜の砂粒を長石・石英を少量含む	良好	口：ヨコナデ　胴内：ナデ（板状工具痕）　外：ハケメ	
第4図22	D-1下層	甕	口：(32.0)	明黄褐色	密、1～3㎜の石英・長石を多く含む、金雲母を微量含む	良好	口：ヨコナデ　胴内：ナデ 胴外：ハケメ	外面にスス付着
第4図23		甕	口：(28.0)	浅黄橙色	径3㎜以下の石英・長石・雲母等を少し含む	良好	口内：ハケメ後ヨコナデ 口外：ヨコナデ　胴内：ナデ 胴外：ハケメ	外面に僅かにスス付着
第4図24		甕	底：8.9	内：淡黄色～黄灰色 外：にぶい黄橙色～橙色	やや粗い、径3㎜以下の石英・長石・雲母等をやや多く含む	良好	内：ナデ　外：ハケメ	
第4図25		甕		内：明黄褐色 外：明黄褐色～黒灰色	1～2㎜の長石粒を少量含む、金雲母を微量に含む	良好	口：ヨコナデ　胴外：ハケメ 胴内：ハケメ後ナデ	
第4図26		広口 壺		明赤褐色～橙色	密、径2㎜以下の石英・長石・雲母等を僅かに含む	良好	口内：ヘラミガキ 口外：ヘラミガキ（暗文）	内外面ともに丹塗り
第4図27		甕		内：橙色～淡黄橙色 外：橙色～淡黄橙色	密、径2㎜以下の石英・長石・雲母等を僅かに含む	良好	内：ナデ　外：ヘラミガキ 底外：ナデ	本来は全体が丹塗りかと思われる
第4図28	D-1上～下層	瓢形 土器		明赤褐色	径3㎜以下の石英・長石・雲母等を少し含む	良好	内:ナデ　外:ハケ（突帯:ヨコナデ）	外面にスス、内面にコゲが付着
第4図29	D-1下層	鉢		赤黄橙色～橙色	密、径3㎜以下の石英・長石・雲母等を僅かに含む	良好	内：ヘラミガキ　外：ハケメ	内外面ともに丹塗り
第4図30		筒形 器台		赤褐色～橙色	密、径2㎜以下の石英・長石・雲母等を僅かに含む	良好	内：ナデ　外：ヘラミガキ	外面丹塗り
第4図31		高坏		灰白色～明赤褐色	密、径1㎜以下の石英・長石・雲母等を僅かに含む	良好	脚内：絞り痕、ナデ 脚外：ハケメ	付部底部～脚部外面丹塗り
第4図32	X-1	高坏		淡黄色	密、径3㎜以下の石英・長石・雲母等を僅かに含む	良好	脚内：ナデ　脚外：ナデ	
第4図33		高坏		橙色	密、径1㎜以下の石英・長石・雲母等を僅かに含む	良好	脚端：ヨコナデ 脚内：ヘラミガキ	

出土土器観察表

① 調査地点遠景

② 調査地点周辺

③ 調査区全景

④ C-1

⑤ C-1屋内炉周辺

⑥ C-1土層（調査区南壁）

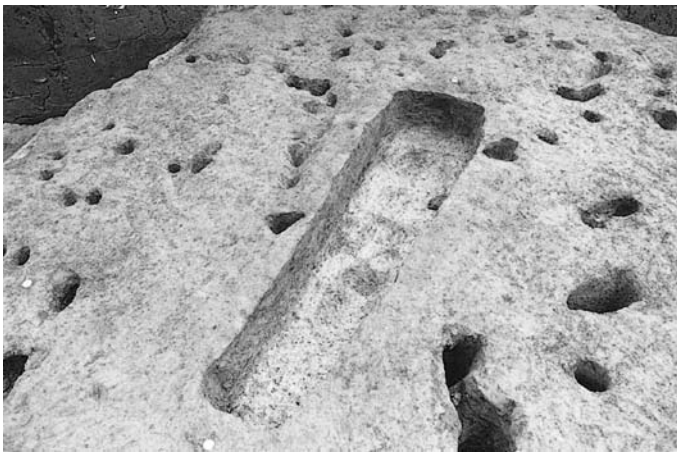
⑦ C-1土層（調査区北壁）

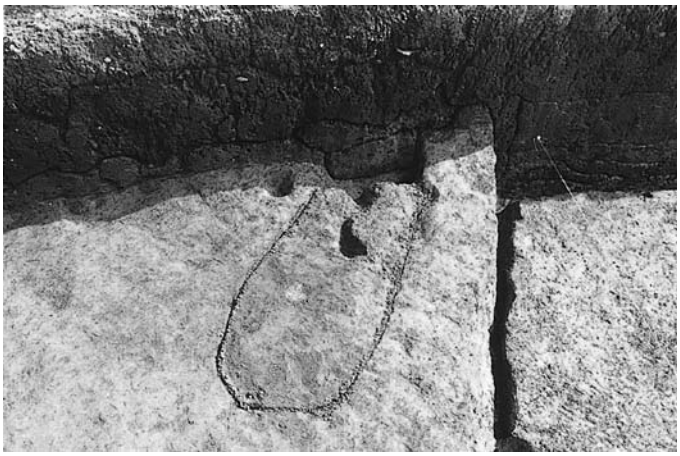
図版２

① C-1完掘状況（D-1）

② D-1

③ R-1


④ R-1完掘状況


⑤ R-2

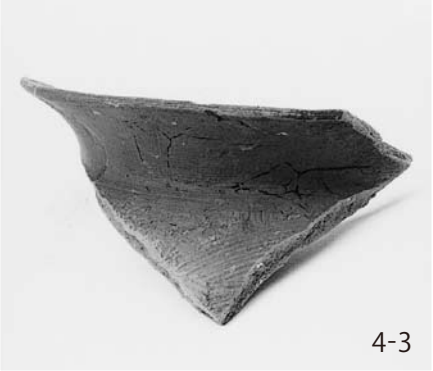
⑥ R-3土層

⑦ X-1

⑧ X-1土層

4-1

4-2


4-3

4-4

4-5

4-6

4-7

4-8

4-9

4-10

4-11

4-12

4-13

4-14

（C-1）

4-17

C：住居跡出土土器

図版４

4-15

4-21

4-22

4-16

4-23

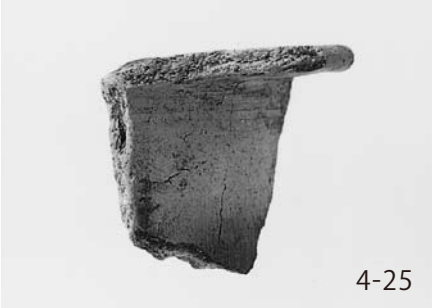
4-27

4-18

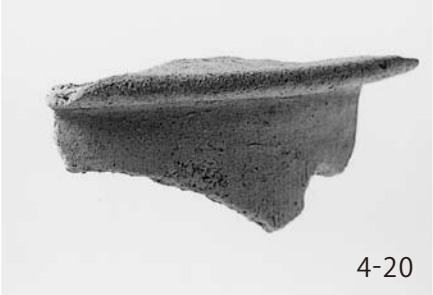
4-24

4-28

4-19


4-25

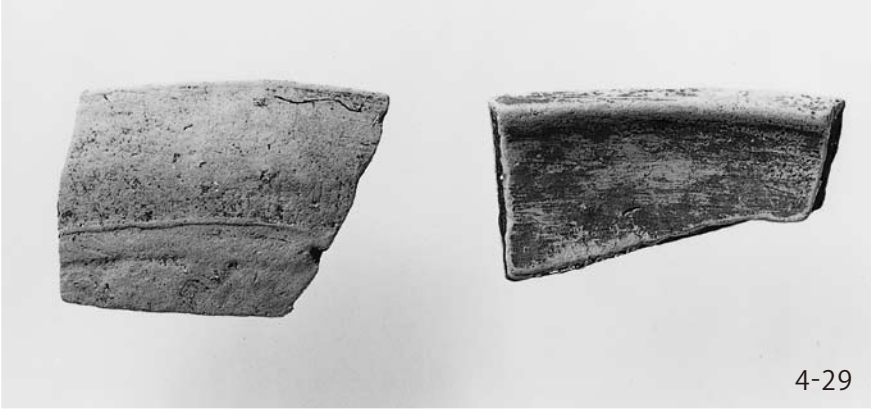
4-30


4-20

4-26

4-31

C：住居跡・D：溝出土土器



Ｄ：溝・Ｘ：その他の遺構出土土器

報告書抄録

ふりがな	おおさきうしろばる
書名	大崎後原遺跡
副書名	福岡県小郡市大崎所在遺跡の調査報告
巻次	
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第247集
編著者名	佐藤雄史
編集機関	小郡市教育委員会文化財課　小郡市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒838-0106　福岡県小郡市三沢5147-3　TEL0942-75-7555
発行年月日	2009年（平成21年）３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大崎後原遺跡（おおさきうしろばるいせき）	福岡県（ふくおかけん） 小郡市（おごおりし） 大崎（おおさき）	40216		33°22′58″	130°33′22″	20080731 20080828	59.5㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大崎後原遺跡	集落	弥生時代 古墳時代	住居跡・土壙墓・溝	弥生土器 土師器	

大崎後原遺跡
小郡市文化財調査報告書
第２４７集
2009年３月31日

発行　小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡255-1
印刷　アーネスト
福岡県小郡市小郡845-3

大崎後原遺跡　小郡市文化財調査報告書　第247集
2009　小郡市教育委員会